

004

# 哲学初歩 (37)

## 哲学と私

### 講座内容

面はゆいタイトルですが、これにしました。50数年のささやかな私の哲学体験を語りながら、哲学を語ろうというのです。群盲の一人の私が語るのですから、とても象のごとき哲学を描けるはずはありません。それどころか哲学にはじき飛ばされ、結局触れずじまいだったのでは、と畏れています。何を語るのか、自分でも興味半分、不安半分です。この「哲学初歩」シリーズは37回を数えます。長い間講座におつきあい下さりありがとうございました。

期 間	5月15日～7月31日	受講料	9,000円
曜 日	木曜日	定 員	40名
時 間	14:00～16:00	会 場	横浜・関内キャンパス
回 数	全6回	持ち物	筆記用具
教 材	講師が毎回資料を用意します。		

### 講座スケジュール

回数	日 程	内 容
1	5月15日 (木)	はじめにー子ども時代から高校まで 子どもの頃電磁石が謎であった。高校生のとき友人が、「死ぬ人間に生きる意味があるのか」とつぶやいた。
2	5月29日 (木)	学生時代 面白そうだが、まったく分からない世界に放り込まれた。哲学の井上忠先生の絶叫。「それは何かだ！」
3	6月12日 (木)	マルクスとヘーゲル 大学紛争の時、哲学に出会った。
4	7月 3日 (木)	ハイデガーとの出会い 分かれると面白くなくなる、という体験をした。
5	7月17日 (木)	モンテーニュという人 平易で深い思索というものがあるのだ。
6	7月31日 (木)	おわりにー言葉の哲学へ 目の前にありながら隠されていた鍵があることに気がついた。これからの私の課題。

### 講師紹介



#### 杉田 正樹(すぎた まさき)

本学名誉教授

このところずっと、言語の哲学に強い関心をもっています。哲学の営みも、広く人間の営みも、言語なしでは在り得ません。沈黙することすら、言語があって始めて成り立ちうるのです。言語の観点から三木の哲学に挑戦してみたいと思います。